

# 中四国生団連 第1回会合 開催

2025年6月13日（金）14:00～16:00 会場（TKPガーデンシティPREMIUM広島駅前） & オンライン 開催

中四国生団連の会員企業・団体の皆様に加え、オブザーバーとして四国経済産業局にもご参加いただき、計23名の方々にご出席いただきました。



▲中四国生団連 山口会長  
(株式会社フジ 代表取締役社長)



▲会場の様子  
(会員同士の交流を図りました)



▲会合の様子

## 概要

### 【会員自己紹介】

会場・オンラインご出席の23名の会員およびオブザーバーの四国経済産業局様より自己紹介をいただいた。

### 【今後の活動について】

- ・中四国生団連は、25年6月現在、57会員が加入
- ・事前アンケートでは「外国人受入れ」と「有事・災害」に関する意見が集中。特に「災害」については南海トラフ地震を想定した意見が多数寄せられた。これら2テーマを重点課題とすることについて、全会一致で賛同が得られた。

### 【外国人受入れ】

・「生活者としての外国人」の受入れ体制構築を目指し、就労・教育・受入れの心構えの3本柱を軸に調査・議論を実施。中四国地域の好事例を収集・共有し、地域・企業の共生への取り組みを促進、会員内の受入れ意識の醸成を図っていく。

### 【有事・災害】

・平時からの備えの意識喚起と、被災者ニーズに即した支援・物資提供に取り組む。南海トラフ地震を見据え、発災時の対応力向上に向けて、企業間連携と円滑なコミュニケーション体制の構築を重視し、情報共有ツールの導入も検討する。

## 出席者ご意見 ※抜粋

### 【外国人受入れ】

- ・日本国民、住民と地域社会と一体感が出るように双方の努力が必要と感じている。
- ・今後の深刻な労働力不足を補う上で重要だと考えている。ただし、実際に雇用するとすると、言語や文化の違い、生活支援など想定以上の課題があると感じている。

### 【有事・災害】

- ・必要な物資を必要な場所へ届けるには生団連のようなネットワークを活用し、集めた物資を「どこにどう届けるか」という実行体制を整えることが重要。
- ・中四国は災害が少ない地域であり、住民の備蓄意識が低く啓発が難しい。平時からの仕組み作りや啓発が必要。
- ・災害時の物流分類・優先措置に関する整理と事前の官民連携が必要。

### 【事務局所感】

- ・「外国人受入れ」「有事・災害」両課題について、引き続き重点テーマとして扱うと共に、いただいたご意見を今後の活動に反映していく。
- ・「外国人受入れ」については、採択・賛同については趣旨を丁寧に説明し、未回答企業への対応を進める。
- ・「有事・災害」については、高精度な情報共有やBCPを超えた企業間連携の必要性を確認した。SMSや掲示板の活用など、実務的な提案も多く寄せられたことを受け、事務局内で整理し、次回の議題とする。